

(イ)主 管(室外側の分岐～室内側の第一分岐間)：図1のB部
最高(室外側から最も高い室内機まで)が90m(実長)以上の場合は、下の通り吸入ガス管・液管の主管サイズを変更してください。
※実長90m(実長)以上の場合は、吐出ガス管のサイズは変更しません。

主 管		サイズアップ後の配管サイズ	
室外機	吸入ガス管	吐出ガス管	液管
224	φ19.05×11.0	φ15.88×11.0	φ9.52×10.8
280	φ22.22×11.0	φ19.05×11.0	φ25.4×11.0
335	φ25.4×11.0		φ28.58×11.0
400		φ22.22×11.0	φ12.7×10.8
450			φ31.8×11.1
500	φ28.58×11.0		φ15.88×11.0
615		φ25.4×11.0	φ25.4×11.0
730			φ28.58×11.0
775	φ31.8×11.1		φ19.05×11.0
850		φ28.58×11.0	φ15.88×11.0
900			φ38.1×11.35
950			φ31.8×11.1
1000			φ22.22×11.0
1060			
1120			
1180			
1220	φ38.1×11.35	φ31.8×11.1	φ19.05×11.0
1280			
1360			
1400			
1450			
1500			

φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用してください。

(ウ)室内側の第一分岐～室内側の分岐間：図1のC部

下流に接続される室内機の容量の合計により下表より選定ください。但し、主管(図1のB部)サイズを超えないでください。

室内機合計容量	吸入ガス管 (ガス管)	吐出ガス管	液管
70未満	φ12.7 ×10.8	φ9.52 ×10.8	φ 9.52 ×10.8
70以上～ 180未満	φ15.88×11.0	φ12.7 ×10.8	φ12.7 ×10.8
180以上～ 371未満	φ19.05×11.0	φ15.88×11.0	φ12.7 ×10.8
371以上～ 540未満	φ25.4 ×11.0	φ22.22×11.0	φ15.88×11.0
540以上～ 700未満	φ28.58×11.0	φ25.4 ×11.0	
700以上～1100未満	φ31.8 ×11.1	φ28.58×11.0	
1100以上	φ38.1 ×11.35	φ31.8 ×11.1	

φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用してください。

※1: 下流に室内機280を接続する場合かつ主管のガス管サイズがφ22.22以上の場合には、φ22.22×11.0を使用ください。

(エ)室内分岐～室内機間：図1のD部

室内機接続配管サイズ表 但し、主管(図1のB部)サイズを超えないでください。

室内機	容量		吸入ガス管 (ガス管)	吐出ガス管	液管
	22, 28	36, 45, 56	φ9.52 ×10.8	φ6.35 ×10.8	φ 6.35 ×10.8
室内機	71, 80, 90, 112, 140, 160		φ12.7 ×10.8	φ9.52 ×10.8	φ12.7 ×10.8
	224		φ15.88×11.0	φ12.7 ×10.8	
	280		φ19.05×11.0	φ15.88×11.0	φ 9.52 ×10.8

φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用してください。

(4)室外側分岐管セット選定

本分岐管セットは室外機と室外機に必ず必要となります。

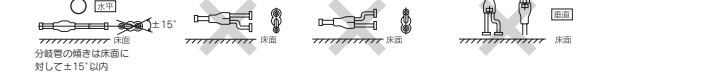
(単独ユニットとして使用する場合は必要ありません。)

お留意

●室外機との接続管は室外機の接続配管サイズに合わせてください。

●室外機への配管(=主管)は主管サイズに合わせてください。

●分岐継手(ガス・液共)は必ず「水平分岐」するように設置してください。



(5)室内側分岐管セット選定

(ア)分岐管セット選定方法

●分岐管サイズは室内機の接続容量(下流の合計容量)により異なりますので右表より選定ください。

お留意

●室内機と室内側分岐管の配管サイズは室内機の接続配管サイズに合わせてください。

●分岐継手(ガス・液共)は必ず「水平分岐」又は「垂直分岐」するように設置してください。

●分岐継手(ガス・液共)は必ず「水平分岐」又は「垂直分岐」するように設置してください。

分岐管1と室外機間の配管長は5m以内として下さい。(L1≤5m, L2+L3≤5m, L4+L5≤5m)

また室外機間の均等管長は10m以内として下さい。(L1+L2≤10m, L3+L4≤10m, L4+L5≤10m)

P1280室外機3台接続の場合



●組合せ機は、以下の内容に注意し、配管工事を実施してください。

の組合せ機は、下図のようにガス管および液管ともに、必ず分岐管(型式DOS)前に500mm以上の管部を確保してください。

の組合せ機は、下図のように配管接続系統において室内機に近い室外機を、組合せ室外機の中で最も小さい容量とし、室内機から遠い室外機を組合せ室外機

中で最も大きい容量として下さい(同じ容量の組合せの場合は、接続位置は問いません)。

(例)下図のように、P1280(P400+P450+P450)の場合、配管接続系統で室内機に近い室外機をP400とし、室内機から遠い室外機をP450とする。

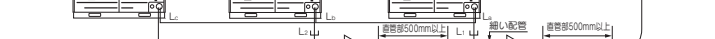
の3台組合せ機の配管接続系統において室内機に最も近い分岐管(分岐管1)は、2段後の配管径が異なる分岐管を使用してください。また、必ず縮み配管

を室外機へ接続し、太い配管を次の分岐管へ接続してください。

分岐管1と室外機間の配管長は5m以内として下さい。(L1≤5m, L2+L3≤5m, L4+L5≤5m)

また室外機間の均等管長は10m以内として下さい。(L1+L2≤10m, L3+L4≤10m, L4+L5≤10m)

P1280室外機3台接続の場合



(2)現地配管施工

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●同一配管径は、操作弁を兼ねて下さい。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

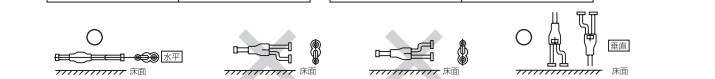
●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

●配管は、図1の通り配管径に接続しないよう注意してください。

<分流通コントロールより上流の場合>

下流の合計容量	分岐管セット型式
～180未満	DIS-22-1-FG
180以上～371未満	DIS-180-1-FG
371以上～540未満	DIS-371-1-FG
540以上	DIS-540-2-FG



(6)分流通コントロール選定

●下流に接続される室内機の合計容量により右表から選定ください。

●各分流通コントロールに接続可能な室内機の台数は右表の通りです。

●液管の分流通コントロールとの接続は不要です。

●分流通コントロールより下流では吐出ガス管の接続は不要です。

●分流通コントロールに室内機が接続される状態でユニットの運転はしないでください。

●室外機に接続する分流通コントロールの台数制限は下記のとおりです。

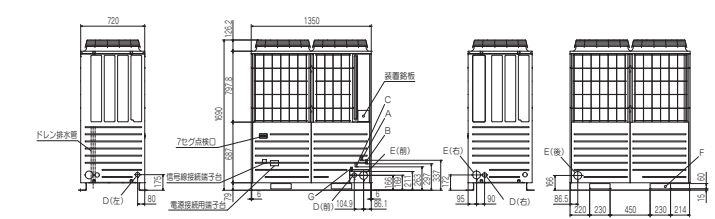
室外機	最小接続台数
～280	2台
～560	4台
～850	6台
～1120	8台
～1500	10台

4-2. 配管工事

(1)配管接続位置と配管取出方向

本図は容量335以下の図を示していますが、400以上もユニット高さが違うのみで配管接続位置と取出方向は同じです。

[]内の寸法が400以上のユニット寸法を示します。



説明記号

A: 冷媒吸入ガス管接続取付口

B: 冷媒吐出ガス管接続取付口

C: 冷媒液配管接続取付口

D: 電源取入口(φ50(右:左方向),長40×80(下方))

E: 冷媒配管取出口(φ88又はφ100)

F: 配管・配管の取り出し

G: 均圧配管接続

Gの均圧管は室外機と室外機のみ接続してください。(単独ユニットとして使用する場合は接続しないでください。)

●配管の取出しは上図に示す通り「前・下・後」が可です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフラング(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落とすに使用してください。

●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を樹脂材(現地手配)で塞いでください。

●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出しは下向き以外をご利用ください。下向きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。

●現地配管の固定は右図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。

(配管方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

●配管の取出しは上図に示す通り「前・下・後」が可です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフラング(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落とすに使用してください。

●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を樹脂材(現地手配)で塞いでください。

●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出しは下向き以外をご利用ください。下向きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。

●現地配管の固定は右図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。

(配管方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

●配管の取出しは上図に示す通り「前・下・後」が可です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフラング(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落とすに使用してください。

●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を樹脂材(現地手配)で塞いでください。

●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出しは下向き以外をご利用ください。下向きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。

●現地配管の固定は右図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。

(配管方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

●配管の取出しは上図に示す通り「前・下・後」が可です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフラング(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落とすに使用してください。

●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を樹脂材(現地手配)で塞いでください。

●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出しは下向き以外をご利用ください。下向きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。

●現地配管の固定は右図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。

(配管方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

●配管の取出しは上図に示す通り「前・下・後」が可です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフラング(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落とすに使用してください。

●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を樹脂材(現地手配)で塞いでください。

●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出しは下向き以外をご利用ください。下向きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。

●現地配管の固定は右図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。

(配管方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

●配管の取出しは上図に示す通り「前・下・後」が可です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフラング(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落とすに使用してください。

●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を樹脂材(現地手配)で塞いでください。

●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出しは下向き以外をご利用ください。下向きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。

●現地配管の固定は右図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。

(配管方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

●配管の取出しは上図に示す通り「前・下・後」が可です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフラング(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落とすに使用してください。

●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を樹脂材(現地手配)で塞いでください。

●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出しは下向き以外をご利用ください。下向きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。

●現地配管の固定は右図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。

(配管方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

●配管の取出しは上図に示す通り「前・下・後」が可です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフラング(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落とすに使用してください。

●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を樹脂材(現地手配)で塞いでください。

●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出しは下向き以外をご利用ください。下向きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。

●現地配管の固定は右図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。

(配管方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

●配管の取出しは上図に示す通り「前・下・後」が可です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフラング(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落とすに使用してください。

●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を樹脂材(現地手配)で塞いでください。

●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出しは下向き以外をご利用ください。下向きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。

●現地配管の固定は右図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。

(配管方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

●配管の取出しは上図に示す通り「前・下・後」が可です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフラング(φ88又はφ100)をニッパで切断し切り落とすに使用してください。

●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を樹脂材(現地手配)で塞いでください。

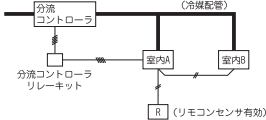
●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出しは下向き以外をご利用ください。下向きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。

7-4. 分流コントローラ下流の室内機の設定

分流コントローラの下流に複数台の室内機を接続する場合は、下記何れかの方法により全て同一の冷/暖モードで運転するように設定してください。

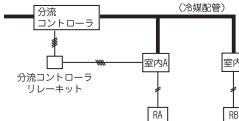
- (1) リモコン1台による複数室内機制御
1台のリモコンにより全ての室内機の通/停・冷/暖モード・設定温度等を同一に制御できます。



- 1台のリモコンを下流の全ての室内機に接続してください。
- リモコンセンサを有効にしてください。

(2) 運転モード設定室内機制御

室内機毎々に接続したリモコンにより **冷/暖モード以外** を個別に制御できます。
冷/暖モードについては分流コントローラリレーキットがつながった室内機のリモコンからのみ設定可能です。



- 下流の室内機1台毎に全てリモコンを接続してください。
- 下記リモコン操作により、分流コントローラリレーキットが **つながっていない** 全ての室内機 (=予室内機: 室内B) にリレーキットが **つながった** 室内機 (= 観望室内機: 室内A) のアドレスを設定してください。
- 観望室内機は特別な設定をする必要はありません。

項 目	操 作	表 示
1 アドレス変更モード	①予室内機のリモコン (簡) のエアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。 ②◆を押す毎に表示が切り換わります。 ③「観望内アドレス▲」表示のときにセットスイッチを押してください。これでアドレスセットモードとなり、観望内No.設定表示となります。 ④◆スイッチにより観望内No.をセットしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチで-1ずつ表示が変化します。	[アドレス変更▼] [アドレス変更▼] ⇄ [アドレス変更▲] [内: ...▲] (点滅)
2 新室内No.の設定	⑤アドレス選択後、セットスイッチを押してください。観望内No.を確定します。 ⑥予室内機のリモコン (簡) のエアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。	[内 000▲] ⇄ [内 001◆] ⇄ [内 002◆] ⇄ [内 127▼] [内 002] (2秒点灯) → [設定完了] (2秒点灯) → 停止状態に戻る

◆スイッチはを0.75秒以上押しつづけることで0.25秒毎に表示を連続して1ずつ切り換えます。
※操作途中でリセットスイッチを押すと直前のセットスイッチ操作前の表示に戻ります。通/停/停止スイッチを押すと本モードを終了し停止状態に戻ります。

<注意事項>

- (ア) 本操作はユニット停止中のみ実施可能です。
(イ) 本制御により観望室内機No. を決定した室内機のリモコンにて運転切換スイッチを押すと「操作無効中」表示を3秒間点灯し灯の状態で戻ります。
(ロ) 関連異常表示

Code	原因
E11	アドレスセットしたリモコンに2台以上の室内機を接続した場合
E18	設定した観望内No.が同一のR.Lネットワーク上に存在しない場合 又は予室内機として設定済みのアドレスを観望内No.として設定した場合

8. 試運転・引渡し

8-1. 運転を始める前に

- (1) 電源線と配管を500Vメーターで測って1MΩ以上であることを確認してください。
据付け後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合には、圧縮機内に冷媒が溜まることにより、電源端子と接地端子の絶縁抵抗が1MΩ以下に低下することがあります。
絶縁抵抗が1MΩ以上ある場合は、元電源を入れてクラunkケースヒーターを6時間以上通電することにより、圧縮機内の冷媒が高昇しますので絶縁抵抗は上昇します。
- (2) 電源投入前に信号線端子点抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号線端子に接続している可能性があります。6-3の抵抗値の目安を参考に配線を確認してください。
- (3) 運転6時間前に必ず電源をONとし、クラunkケースヒーターに通電してください。圧縮機が故障する原因となります。
クラunkケースヒーター通電後、上記時間が経過するまで圧縮機内部の温度が上昇しないと圧縮機が運転しない場合があります。(圧縮機保護のため) 7セグLEDに「H0(C.O.C.O.)」と表示されています。クラunkケースヒーター通電により圧縮機内部の温度が上昇してから試運転を行ってください。
- (4) 圧縮機が運転してしまっていることを確認してください。
- (5) 室外機の操作弁(ガス・液)は必ず全開にしてください。既に全開にすると圧縮機が故障する場合があります。
- (6) 全室内機の電源が入っていることを確認してください。一部の室内機電源が入っていない場合、故障の原因になります。

ご注意

試運転前に操作弁(ガス・液)の全開をチェックしてください。閉状態では圧縮機故障の原因になります。

8-2. チェック運転

試運転の前にチェック運転を行うことを推奨します。
(チェック運転を行わなくても試運転及び通常の運転は可能です。)
チェック運転の詳細な作業内容については、技術資料をご覧ください。

- 概要**
チェック運転は室内外ユニットアドレス設定終了後かつ冷媒投入後実施してください。
・冷媒量が適正でない場合は正確なチェックができません。
・システムが異常停止中はチェック運転を行うことができません。
・室内機接続接続容量が室外機容量の80%未満の場合はチェック運転を行うことができません。
・システム過渡方式(従来過渡方式(EIS))の場合は、チェック運転を行うことができません。
・複数の冷暖運転と同時にチェック運転を行わないでください。正確なチェックができません。
・チェック運転は適用温度範囲内(外温: 0~43℃、室温: 10~32℃)で行ってください。適用温度範囲外では、チェック運転を開始しません。
・外気処理ユニットおよび給気処理ユニットはチェックができません。(同一冷暖系統の外気処理ユニットおよび給気処理ユニット以外の室内機についてはチェックできます)
・接続室内機が1台の時はチェックができません。
・デマンドモード、省エネモードで0%設定になっている時はチェックができません。
・ドーム下過熱度が15℃より低い場合、保護制御によりチェック運転が動作しない場合があります。
クラunkケースヒーターをチェック運転時の6時間前に入れてください。
- (1) チェック項目
チェック運転では下記について確認できます。
・操作弁が閉じたまにないか(操作弁開閉チェック) (但し、組合せの場合正確に判断できるのは観・予機全操作弁開 のときのみです。)
・室内外ユニット間の冷媒配管・信号線が適正に接続されているか(アンマッチ チェック)
・室内配管弁が適正に動作するか(膨張弁故障チェック)
- (2) チェック運転方法
① チェック運転の開始
・SW3-6(配管洗浄モード)、SW3-7(冷媒強制モード)、SW5-1(試運転)、SW5-2(試運転冷房設定)、SW5-3(ポンプダウン運転)
SW5-6、7、8(デマンドモード)全てがOFFであること。
・次にSW3-5(チェック運転)をOFF→ONにすることでチェック運転を開始します。
・チェック運転を開始してから終了するまでの所要時間は通常15~30分 (最長80分) です。
② チェック運転の結果表示
チェック運転が終了するとシステムは自動的に停止し、7セグに結果を表示します。
<正常終了>
・7セグに「CHO End」表示が出ます。
・SW3-5をOFFに戻してください。7セグは通常表示に戻ります。
<異常終了>
・7セグにエラー表示が出ます。
・「ここを点検してください」を参照して不適合部分を修正し、SW3-5をOFFに戻してください。
・その後再度①のチェック運転を行ってください。

チェック運転時の7セグ表示

コード表示	データ表示	表示内容
H1	最大残存時間	チェック運転準備運転中。最大残存時間 (分) を表示する。
H2	最大残存時間	チェック運転中。最大残存時間 (分) を表示する。
CHO	End	チェック運転正常終了。

8-4 引き渡し

- 交付、試運転完了後、取扱説明書によってお客様に使用方法、お手入れの方法を説明してください。また、この交付説明書は取扱説明書とともにお客様にて保管するように依頼してください。
●長時間運転しない場合でも、電源スイッチは切らないようにご注意ください。電源や冷房運転をしないといきつても運転が可能となります。(クラunkケースヒーターにより圧縮機内部が暖められているためスラインの圧縮機トラブルを防ぐことができます。)

JRA GL-14「冷暖空調機器の冷暖漏えい防止ガイドライン」に基づく漏えい点検記録簿の管理と定期的な冷暖漏えい点検のお願い
設置が完了した、漏えい点検記録簿を作成し所有者に保管の義務を説明してください。
漏えい点検記録簿に気密試験の結果、設置の際の冷媒追加投入量、漏えい点検の結果を記録してください。
●本製品を所有されているお客様へ
製品の性能を維持して頂くために、また、冷暖ポンプ類を適切に管理していただくために、定期的な冷暖漏えい点検 (有償) をお願いいたします。
漏えい点検時には、漏えい点検資格者によって「漏えい点検記録簿」、機体を設置した時から消費する時まで全ての点検記録が記載されます。本製品の引渡しの際には、本製品の設置工事を行った工事業者様より「漏えい点検記録簿」を受け取り、記載内容の確認と記録簿の管理 (管理委託を含む) をお願い致します。なお、詳細は上記のサイトをご覧ください。
●本製品を設置する工事業者様へ
本製品をご使用になるお客様には、製品の性能を維持して頂くために、また、冷暖ポンプ類を適切に管理していただくために、上記ガイドラインに基づいた「漏えい点検記録簿」による定期的な冷暖漏えい点検をお願いしております。
本製品の引渡し、所定の漏えい点検作業を行い「漏えい点検記録簿」を作成いただいた後、お客様に点検期間について説明いただき、取扱い説明書、交付説明書と共に、お客様で保管いただくように依頼させていただきます。
尚、冷暖漏えい点検には、漏えい点検資格が必要で、漏えい点検資格制度、「漏えい点検記録簿」の用紙については、以下の日設置ホームページをご覧ください。
JRA GL-14は、 <http://www.jraia.or.jp/index.html>
冷暖漏えい点検制度は、 <http://www.jarac.or.jp/roel/>

様式 1 冷暖漏えい点検記録簿 (汎用版)	年 月 日~	年 月 日	管理番号
施 設 所 有 者	設備製造者		
施 設 名 称	系 統 名	設置年月日	
施 設 所 在 地	電 話	型 式	製品区分
運転管理責任者	電 話	製 造	設置方式 現地施工
点 検 会 社 名	責 任 者	使 用 機 器	用 途 空調用
事 業 所 在 地	電 話	冷 媒 量 (kg)	合計充填量 合計回収量 合計排出量 排出係数(%)
使用冷媒	R-410A	初期充填量 (kg)	点検期間 基準
作業年月日	点検理由	充填量 (kg)	回収量 (kg)
		監視 検知手段 (有償)	センサー型式
		センサー感度	資格者名
		資格者登録No.	チェックリストNo.
			確認者

9. サービス時の注意 (R410A対応機)

- (1) 異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工務隊を使い分けてください。
(2) 冷媒油への取替を避けるために、冷媒回収の開放時間は短くしてください。(10分以内としてください)
(3) その他配管施工、気密試験、真空引き、冷媒封入に関しては「冷暖配管」をご覧ください。
(4) 故障診断
故障診断内容はユニットに貼り付けている配線図表と技術資料を参照してください。
(5) 7セグLED表示
表示切替スイッチにより、データを表示できます。表示内容はユニットに貼り付けている配線図表を参照ください。